２年目の試練、「あきさかり」多収ならず！

■　豊南地域水稲生産者　■

（西讃農業改良普及センター　宮崎勝、○山田浩三、山地優徳、嶋田真耶、池田晃一郎）

●対象の概要

豊南地域は、県内でも有数のレタスやブロッコリー、葉ネギ等の露地野菜の栽培が盛んな園芸産地である。水稲は野菜との二毛作栽培が多く、「連作障害回避のための作付」と位置付ける生産者も多い。

また、水稲後の秋冬野菜の作付が多いことから、早生品種が好まれる地域性があり、「コシヒカリ」と「あきさかり」の２品種で75%を占める偏った品種構成となっている。

●課題を取り上げた理由

同地域は、①園芸産地における耐倒伏性のある多収性品種、②「コシヒカリ」とのＣＥ荷受競合による異品種混入等の事故発生のリスク回避などポスト「あきたこまち」の探索が喫緊の課題であった。平成27年から３年間の試験結果や「産地品種銘柄」設定などの条件が整ったことで、平成30年から多収性品種の「あきさかり」に全面切替となった。

導入１年目の昨年は、収量、品質ともに上々ではあったが、①植付本数が多く過繁茂傾向、②強い中干し、早期落水などの不適切な水管理、③登熟期の天候不順で成熟期判定が難しかったなどの課題が残った。

●普及活動の経過

1　「あきさかり」に特化した栽培講習会の開催

一般水稲の栽培講習会（12月）とは別に、「あきさかり」のみを対象とした講習会を１月に開催し、品種特性を踏まえた栽培管理、特に植付本数の適正化、間断かん水を基本とした水管理を周知した。

また、新たに製品化された「あきさかり」専用基肥一発肥料「あきさかり一発」の肥効について説明した。

７月には、栽培基準田を活用して、穂肥診断の現地講習会を開催し、幼穂の見方や穂肥の時期と施用量の判定方法を実演するなど、単収向上のポイントを説明した。

2　豊南独自の「あきさかり」栽培のしおり作成

３年間の試験結果及び平成30年度栽培基準田の結果などを踏まえた、品種特性や栽培管理のポイントを示した、“豊南独自”の栽培のしおりを作成・配布し、栽培技術の高位平準化を図った。

3　栽培管理情報「あきさかり」通信の発信

本格栽培２年目を迎え、「めざせ！単収540kg」をキャッチフレーズに、品種特性を踏まえた基本技術の励行を推進・支援するため、栽培管理情報「あきさかり」通信を発信した。

育苗センターでの緑化苗引き渡し時やＣＥ荷受許可証発送時、栽培履歴提出時などの機会を活用して年６回、作成・配布・掲示した。

特に、「あきさかり」は「コシヒカリ」と異なり収穫時期においても葉色を濃く保つことから、「葉の緑色に惑わされることなく、穂の熟れ具合を良く見る」ことが重要で、成熟期の写真を入れた「収穫適期のチラシ」を作成・掲示し、適期刈取りを推進した。

「あきさかり通信」vol. 6
（適期収穫編）

4　栽培技術の「見える化」

JA豊南地区営農センターの支店単位に基準田を７か所設置し、生育ステージごとに巡回・調査を行い、栽培管理指導内容等を看板に記入することで栽培技術の「見える化」を図った。

5　奨励品種決定調査現地試験の実施

全県的に試験栽培及び本格導入の動きが拡大する中、奨励品種への採用に向けて２年目の現地試験を実施した。「はえぬき」を標準品種として生育状況、収量性等について調査した。

6　他産地との意見交換・現地ほ場巡回を実施

短期コシヒカリなどからの品種転換で県内一の面積を誇る東讃普及センターを訪問し、担当者と「適期刈取りのための成熟期判定」について意見交換するとともに、田植日の異なるほ場を巡回し、「籾の熟れ具合」などを見て、成熟期を検討した。

成熟期を検討（東讃管内）

●普及活動の成果

1　栽培基準田は昨年を上回る好成績！

きめ細かな指導の結果、７ほ場の平均では収量（ 540kg→554kg)、品質（２等下→２等上)、整粒歩合（58%→70%)、玄米タンパク質含有率（6.8%→6.5%）など全ての項目で昨年を上回った。また、過剰な植付本数や疎植傾向の株間も改善の兆しが見えた。

表―１　栽培基準田の調査結果

NO	田植日（月日）	出穂期（月日）	成熟期（月日）	植付本数（本／株）	株間（cm）	稈長（cm）	穂数（本／株）（本／㎡）	精玄米重（kg／10a）坪刈換算	外観品質	スコア（点）
1	5.23	8.5	9.8	4.5	24.8	77.4	26.2 352	640	1等下	76
2	5.26	8.3	9.11	8.0	23.0	78.9	26.0 377	571	2等上	72
3	5.30	8.8	9.14	5.5	24.0	76.1	25.2 350	508	1等下	80
4	6.4	8.10	9.18	5.7	20.0	78.1	26.9 448	584	1等下	79
5	6.6	8.11	9.16	5.3	24.4	74.3	21.6 296	471	2等上	80
6	6.10	8.14	9.18	3.7	22.5	75.9	18.8 278	569	2等上	75
7	6.19	8.18	9.30	6.5	25.0	74.2	23.1 307	532	1等下	73
令和元年産平均（7ほ場）				5.6 やや多い	23.4	76.4 短稈	24.0 344 やや少ない	554 多収	2等上 充実度	76.4 良食味
平成30年産平均（8ほ場）				5.7 やや多い	24.7 やや広い	73.7 短稈	27.8 377	540 多収	2等下 充実度	76.1 良食味

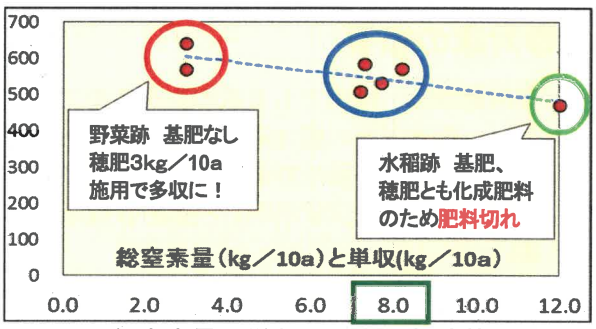
一方、近隣の「あきさかり」生産者の参考となるよう栽培管理内容を「豊南独自の看板」に記入し、栽培技術の「見える化」と生育状況を確認することによる「安心」を提供した。

2　豊南地域全体では、多収ならず！

遅い梅雨入りとその後の低温、日照不足による分げつ不足が穂数の減少につながり、「あきさかり」専用一発肥料「あきさかり一発」の総窒素量がやや少なかったことなども原因で、ＣＥ荷受けの単収換算（推計）は、昨年の492kg／10aから446kg／10ａに大きく減収した。

3　「単収アップ」に向けた栽培しおりの見直し

減収が基肥一発肥料の総窒素量7.2kg／10ａがやや少なかったことも要因と考えられ、7.2～8.1kg／10ａと幅を持たせ、前年の生育状況等を踏まえ、生産者自ら考えて施肥量を調節することとした。また、適期収穫を促すため、成熟期の草姿の写真を追加した。



図－１　総窒素量と単収の関係（栽培基準田）

4　更なる普及を目指した県奨励品種に採用！

各普及センターなどにおける２年間の現地試験結果などを踏まえ、奨励品種に採用された。

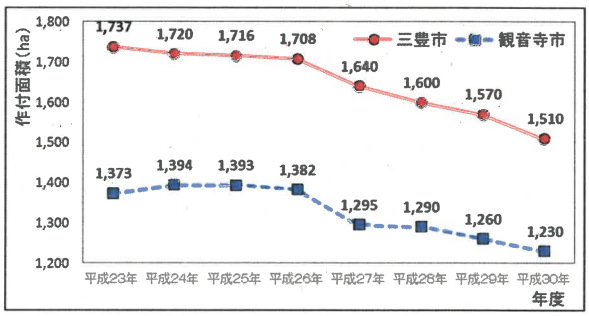
●今後の普及活動の課題

1　「めざせ単収540kg！」で農家所得の向上

栽培基準田の調査結果などを踏まえ、改めて「あきさかり」の品種特性の周知や紋枯病対策、同地域の昔ながらの慣習である「強めの水管理」に対する粘り強い指導など、「健苗育成から適期収穫まで」の支援で、多収による農家所得の向上を図る。

2　「豊作の歓び」の提供と水稲作付拡大

近年、水稲作付の減少に歯止めがかからない中、多収性品種の導入により、「豊作の歓び」と農家所得の向上を図り、関係機関と連携し、水田の有効活用と水稲の作付維持・拡大を推進する。



図－２　主食用水稲の作付推移（西讃管内）